

令和6年度 ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン懇談会

- 開催日時:令和7年2月4日(火)14時00分~15時00分
- 開催場所:福井市上下水道局5階大ホール
- 出席者:ビジョン懇談会委員 9名(6名欠席)
各市町政策担当課職員 10名(1名欠席)
各ワーキンググループ職員 27名

意見等

(1) 第2期ビジョンの取組状況について

- 目標値を上回った成果指標(資料3)で、「福井県・外国人延べ宿泊者数」が、目標値の2.4倍となっているが、これはコロナによる減少からの復活なのだと思う。福井県は、これまでもインバウンド事業を進めるのが厳しい所であったが、これをきっかけに、福井県への外国人訪問者数が上振れすることを期待したい。
- これからの福井県にとっては、観光を中心としたサービス産業を注目すべきではないか。それを裏付けるような延べ宿泊者数の増加ではないかと思う。
- 私が生活する地域では、路線バスの本数が減り、福井駅まで一本で行けなくなり、料金が高くなっている。それに加えて、越美北線がすぐ止まってしまう。
- 北陸新幹線が敦賀まで延伸し、列車は混み、観光客も増えているにもかかわらず、大野への行き来は不便になった。
- 二次交通の件について、福井県全体として変えていかなければならない。未来に向けて福井県を輝ける地域にするため、ぜひここで、各自治体はお金をつぎ込んでも、改革していただきたい。
- 福井県の位置関係を見ると、北には石川県加賀があり、西、南の方には京都がある、京都や加賀と同じような観光の取組ではなく、福井ならではのオリジナリティを出した戦略が必要である。
- 福井の奥の深い歴史は福井の売りの一つになるのではないかと。継体天皇以降、1,500年の歴史と言われるが、そこを深く突っ込んで、利活用方法を探していくということも、福井のこれからの戦略になるのではないかと。
- 産業面では製造業が強く、それも単に強いのではなく、歴史的に福井は深いものがある。例えば、金属加工技術は、日本に3世紀から7世紀ぐらいに伝わってきた技術であるが、福井県越前は三大産地の一つとして知られた。福井を産業面からも突っ込んで精査し、理解するのも、福井県の発展に繋がっていく。
- いろんな切り口を変えることで、いろんな福井の面白さが出てくる。そういうところに目をつけながら、福井県を変えていかなければならない。
- 来年度のNHK大河ドラマが「豊臣兄弟!」ということで、福井ゆかりのお市の方が、宮崎あおいに決定されたということである。こういった歴史を絡めた福井のPRがなされることを期待している。
- 越前町もこれまであった路線バスが廃止になったり、減便になったりする中で、どのよ

うに観光客を呼び込んでいくかが大切である。

- 越前町も観光で頑張っているが、関東から近くなった代わりに、関西・中京の観光客が減ってきている。
- 敦賀から福井の方に来て、通り過ぎていただくわけにはいかない。圏域へ来ていただいて楽しんでいただく、泊まっていただくように、もっと福井をアピールして欲しい。
- 福井県はPRが下手と、昔から言われていて、現在も変わっていない。横着になってはいけませんが、私たち一人一人が気概を持ってやらないと変わらない。県外に行ったら一つ福井を自慢して帰る。75万人全員が県外で自慢を言う、実践して
- 現在、平成の米騒動を上回る金額で米価が推移しており、池田町でも米がもうそろそろなくなるというところである。何故かという、農業者の高齢化や、生産者のみならず国全体の人口減少が急加速していることがある。
- 米を売る立場としても、コアな人、ちゃんとわかっている人の手元に届けたい。池田町の農村の文化と正しい情報、例えば米は一等米なのか二等米なのか、米屋さんでブレンドされているのかされてないのか、どのような人が作っているのか、そういった情報をセットに、池田ファン・福井県ファン、リピーターを得ていきたい。
- 池田町でも、中京圏から峠を超えて、大型トラックであったり、観光客であったり、いろんな人が交流している。通り過ぎるだけではなく、お金を落とす、また来ていただくというような仕掛けを考えざるをえない。
- 温暖化も進んでおり、23年、24年は、8月、9月の温度が極端に上がってきた。そういった時期に温度が上がると、胴割れや乳白が起こって米の品が悪くなる。
- 温暖化だけでなく、四季が極端になり、春と秋がすっ飛んで冬と夏しかないような状況の中で、農業生産も非常に厳しい。鳥獣害など様々な問題もあり、農産物がちゃんと生産できる状況が難しくなっている。
- 新幹線が福井まで通って、東京へすぐ行きやすくなった。そういう面では、非常に便利になった。
- 今回の報告で、いろんな達成状況を見てもある程度やっていると思っているが、福井がどんどん元気になっているイメージがまだ実感できない。
- 医療や介護、福祉の現場では、本当に人がいない。特に介護、福祉では、東南アジアからも人に来てもらっているが、今は円安ということもあり、安定して人が採用できる体制構築が本当に難しい。
- 働く人の安定供給は、県内の産業が安定した状態になればなかなか難しい。
- 観光客を受け入れることも大事だが、福井全体として元気になるには、皆の暮らしが安定することが大元だと思っている。
- 北陸新幹線に関しては、JRから具体的な数字がまだ公表されていないが、駅のある場所や、観光地はそれなりに賑わいがある。観光客にはリピーターになってもらい、福井県へ何回も訪れていただくような、仕組や取組がないと、圏域の津々浦々までは賑わいが伝わってくれないと感じている。
- 少子高齢化社会の中では、自然増は今後も絶対ないことから、移住促進等の取組を強化していただきたい。

- 地域によって転出の状況は変わるのだろうが、福井の転出超過の状況は少し落ち着いてきている。新幹線開業効果もあると思うが、今年の結果に期待する。
- あわら温泉の現在の入込の状況は、令和6年1月から12月で前年比110%との速報が出ており、隣の加賀温泉郷とほぼ同じ状況である。金沢開業の際は、前年比113%で同じくらいだったと思うが、宿泊数が93万人に上がったのが、今回は60万人ちょっとである。今年1月の予約の状況で言うと、昨年比117%ぐらいで堅調にきている。2月の予約も堅調である。
- 今後、効果を持続させるために、先ほどの観光情報の発信等の継続が大事になってくる。「福いろ」には素晴らしいコンテンツがたくさんあるが、そもそも「福いろ」へどうやってアクセスできるのか、関東のお客様がわかってない。まずは、アクセスを考えていただきたい。
- 大手検索サイトで、東京からあわら温泉の宿まで経路検索すると、まず敦賀までかがやきで行き、はくたか・つるぎに乗り換えてあわら温泉に戻ってくださいという案内になることがある。インターネットサービスも使いようによっては不親切になりうるので、そういったところも気をつけていただきたい。
- 去年の11月のデータで比較すると、宿泊者は113%増えており、宿泊の費用は115%程度、1億5,000万円ほど増えたとあるが、宿泊者に提供した部屋数は9割となっている。お客様から問い合わせがあったときにお出しできる部屋がなく、満室ですと答えざるをえないという状況がある。人材不足を解消しないと、きちんとした経済効果が生まれない。
- 武生商工会議所管内では、四半期ごとに景気動向の調査をしているが、新幹線開業で何か影響があったのかについては、越前市はものづくりの都市ということではほぼないが、一部の飲食関係では良くなったという回答がある。
- 10年前と比べると、刃物に比べ物にならないぐらいの引き合いがあり、作ってもすぐ売れてしまう状況と聞いている。インバウンドの観光客も、包丁を買いに来ていると聞いており、打ち刃物に関しては良くなっている。
- 電子デバイスも非常に好調で、越前市の外国人人口が7%超えて過去最高というところを更新している状況と聞いている。ハードディスクの価値が見直されている流れを受けて、最先端のものじゃなくて、より下位の製品の引き合いが非常に増えてきていると聞いている。
- 先日、大阪に新年のあいさつ回りに行った際にも、大阪の方から福井県のPRは下手だという話が出た。また、北陸新幹線開業があって、福井は関東ばかり見ていると言われた。福井は、大阪・関西の奥座敷と言われる場所であり、もっと関西や中京の方へPRしたほうがよい。
- 関東重視か関西重視かは難しいが、戦略的に考えていかなくてはならない。